

# 助成年度：平成7年度

[所属] 京都大学 農学部  
[役職] 教授  
[氏名] 岩井 吉彌 (他計4名)

[課題]

## 自然的観光資源の保全とエコツーリズムの推進に関する経済学的研究

[内容]

### 研究目的

近年、我が国でも注目を浴びつつあるエコツーリズムの発展と問題点をとらえ、その上に立って、望ましいエコツーリズムのあり方を追求することを目的とする。

### 研究方法

- 1) エコツーリズムとそれに関連する環境問題や環境運動に関する資料等を収集した。
- 2) 西表島（沖縄県）、白神山地（青森・秋田県）、釧路湿原（北海道）を調査対象地とし、観光関連従事者、行政機関に対してヒアリング調査を行った。
- 3) 上記3地域において訪問客に対し、旅行者としての行動様式、自然環境や観光、エコツアーに対する項目、自然環境の保全に対する支払い意志額についてアンケート調査を行った。配布は、宿泊施設等では、返信用封筒を付けたアンケート用紙を置き回答者が付属の封筒で自ら返送する方式、野外の主要観光場所では来訪した訪問客に手渡しで実施した。配布数と回収数は西表島が2,199枚配布の495枚回収（回収率：23%）、白神山地が2,159枚配布の376枚回収（17%）、釧路湿原が1,426枚配布の361枚回収（25%）であった。

### 研究成果

#### 1) 現地ヒアリング調査の結果

何れの地域においても、年々来訪者が増加しているが、大型の宿泊施設や観光施設が存在しないため、来訪者の増加が地元地域経済に与えるプラスの効果は余り大きくない。エコツーリズムを地元振興に結びつける難しさがここにある。来訪者の増加により一部自然環境の保全に問題があることが、地元関係者にも認識され始めている。その点、白神山地で行われているコア地域（核心地域）の設定は、こうした人々の混雑現象による環境面への影響を抑える上で一つのヒントを与えている。

#### 2) アンケート調査の結果

観光の現状では、西表島と釧路湿原では多くの観光客は観光客数が多いと感じているが、白神山地では適正かやや少ないが半数を占めた。観光による自然破壊については、いずれの地域でも「少し破壊されている」が約6割を占め、「かなり破壊されている」も含めると、多くの観光客が破壊の進行を感じていることがわかった。その保全策としては、いずれの地域でも「利用範囲の制限」と「利用方法の制限」をあげる者が多く、「観光客数の制限」や「入山（入島）料の徴収」など利用者数の直接的制限措置を求める者は比較的少なかった。

地域の特徴としては、西表島では、破壊が進んでいるとより強く認識され、利用制限についても比較的積極的にあったのに対し、白神山地では、破壊はまだそれほど強く認識されず、利用制限に対する意識もやや低かった。釧路湿原では、展望による利用が中心であり、観光利用との関連より自然環境の保全そのものに対する関心が高い傾向がみられた。

「エコツーリズム」または「エコツアー」について、いずれの地域でも「内容を知っている」と回答した

人は約1割であったが、「聞いたことがある」を加えるとほぼ半数が何らかの予備知識を持っていた。国の機関がインストラクターを付けて利用を管理するシステムの導入に対しては5~6割が賛成しており、エコツアーを受け入れる素地はできつつあることが判明した。